

第1回第二期高知市中心市街地活性化基本計画策定検討委員会  
議事概要

○日時 平成28年12月7日(水) 13:30～15:30

○場所 高知市たかじょう庁舎 6階会議室

○出席者

【委員 12名】

委員長 広末 幸彦	副委員長 古谷 純代
委員 高橋 卓弥	委員 山添 真理
委員 小島 尚	委員 友田 由美
委員 亀川 代平	委員 高橋 政明
委員 笹岡 和泉	委員 大谷 聡
委員 熊野 裕二	委員 松本 明

【オブザーバー 6名】

麻岡 誠司(代理 池田 義明)	尾下 一次
清水 博	谷口 佳史
杉本 雅敏	橋詰 辰男

【事務局】

高知市商工観光部長 中澤 慎二  
高知市商工観光部副部長 松村 和明  
高知市商工観光部参事商工振興課長事務取扱 狩場 信壽  
高知市商工観光部商工振興課  
中心市街地・地域商業活性化推進室長 松岡 宏輔 外

○次第

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 委嘱式
- 4 委員及びオブザーバーの紹介
- 5 委員長、副委員長の選出
- 6 議事

○議題

- (1)第二期高知市中心市街地活性化基本計画の策定について  
→事務局より説明(資料3・資料4)

## ■ 質疑等

### 【副委員長】

資料3の18ページで、平成23年と24年で歩行者通行量が大幅に下がっているが、これは平成23年に龍馬伝があって、県外からの来街者も含めた歩行者通行量が下がったということか。

#### <事務局>

歩行者通行量調査は、平日と休日各1日調査するが、平成24年は天候が悪かったため通行量が落ちてしまったと考えられる。

### 【委員】

そもそも論になるが、中心市街地は、どこを考えているのか。資料3の20ページを見ると、通行量調査は大橋通りからはりまや橋で行っているが、高知駅前から帯屋町、はりまや橋方面は、人の流れがどうなっているのか分からない。中心市街地はどこを中心に考えているのか、目的と検証している指標の整合性が分からない。

#### <事務局>

資料3の通行量調査は、中心商店街だけを抜粋して掲載している。他の地点でも通行量調査を行っているが、資料では中心商店街の東西部分について、帯屋町チェントロ開館前後の通行量比較がよく分かるような形で示している。

現行の中心市街地活性化基本計画でいう中心市街地のエリアは、資料3の7ページにある、赤いラインで示した142haである。現行計画の前、平成11年3月に策定した、旧高知市中心市街地活性化基本計画では愛宕商店街などを含めた270haを計画エリアにしていたが、現行計画を策定する際に、コンパクトシティの概念等が国から示されたことから、現行計画においては、表玄関である高知駅から高知城を含めた東西の中心商店街のエリアである142haに縮小して、計画を定めた。今回の二期計画についても、142haを計画エリアとして検討をしていきたいと考えている。

### 【委員】

今回の資料では中心商店街の東西しか歩行者通行量の情報がないので、例えば高知駅からどのように人が流れているのかという情報があつた方が課題を整理しやすいと思う。

#### <事務局>

次回の検討委員会では、現行計画の検証、中心市街地の現状把握・分析などを協議する

予定であり、今回資料に掲載した以外の地点における通行量等も示していく。

#### 【委員】

私も、そもそも論で尋ねるが、評価指標は変えない前提なのか。中心市街地の居住人口を増やすのか、中心市街地を魅力ある街になるようにするのか。最近マンションがあちこちにできて、その結果人口は増える。一戸建てが無くなって、街の中にマンションが少し集まって、それが果たして中心市街地活性化の目指すものなのか。そもそも中心市街地に人が住むことを目標にしているのか。

私はこれまでいろんな所に住んできたが、住む場所として中心市街地が魅力あるかと思うと、自分が住むところは中心市街地でなくても構わない。例えば神田に住んでいるけど、中心市街地に買い物や遊びに行くということに繋がれば、それで良いと思う。郊外に住んでいる人が中心市街地に住んでいくことを目標にしているのか。居住人口でない、別の指標があっても良いのでは。

また、中心市街地の賑わいとは、商店街にどれくらいお金が落ちているのかも知る必要がある、つまり街で商売することが、成り立っているのかどうか。歩行者通行量はやや増えている印象はあるが、継続して事業をやっていく状況にあるのかどうか、そこも調べた方が良いと思う。

#### <事務局>

現行計画で2つの目標に対し評価指標、参考指標をそれぞれ設定しているが、二期計画においては、本委員会のなかで、どのような指標を設定していくかを議論いただこうと考えている。ご意見のあった街なか居住の促進であるが、中心市街地活性化法の趣旨は、商業の成果だけではなく、中心市街地に住む人、中心市街地外から働きに来る人や買い物に来る人にとって、魅力ある街となるように指標を設定する必要がある。一方、資料3の2ページで示したように、郊外化の問題等があり中心市街地の空洞化により、居住人口が減少傾向にあることから、街なかの人が減れば、当然経済的な購買力も減少することになる。既存のインフラをうまく利用し、投資を促していくために、居住人口を増やしていくというのも、中心市街地活性化基本計画の一つの趣旨であると考えている。

#### 【委員】

高知市のように人口30数万人規模で、コンパクトシティを目指す目的で、中心市街地エリアがわずか142haではないと思うが。

#### <事務局>

計画エリアについても、現在の142haのエリアをどうしていくかというところも、議論の対象になってくる。エリアの設定については国との協議・調整も必要になってくるので、

本委員会で出された意見をふまえて調整したいと考える。

**【委員長】**

エリアや指標は二期計画で検討し直すということか。

＜事務局＞

今回ご論議いただくのは、コンパクトシティという全体の考え方というよりも、中心市街地がどこか、現行計画でも国と協議しエリアを設定した。策定から、5,6年経っているので、見直しがあるかもしれないが、一旦過去の推移を見ながら、中心市街地がどのように変わっていくのかを検討するのであれば、できれば同じエリアを考えている。指標については、居住人口は客観的数字であるし、市民意識調査の変化も一つの指標になるかと思うので、議論いただく中でご意見を参考に検討していきたいと思う。

**【委員】**

空き店舗率については順調に目標がクリアされているという説明があったが、改善の要因などは把握しているのか。

＜事務局＞

空き店舗率は、本市の場合、中心市街地と周辺の近隣商店街とでは、明らかに異なっている。中心市街地活性化基本計画が平成24年11月末に策定しており、中心市街地では空き店舗率を減らしていく対策として、本市では空き店舗活用創業支援事業費補助金を創設した。これは、中心市街地の空き店舗を活用して取組む際の店舗賃借料を補助する事業で、その事業の取組みをしたことによって、中心市街地においては、空き店舗率が改善されたのではないかと考えている。一方、中心市街地以外の近隣商店街は、空き店舗率が悪化している。最近は特に悪化が顕著になってきたので、この空き店舗補助金を近隣商店街の方に拡充していこうと、28年度から新たな取組を始めたところである。周辺の近隣商店街については、今後事業の活用によって、何らかの変化が現れてくるのではないかと期待している。

**【委員】**

基本的には、店舗があったという所が埋まる際にその用途を変えるときは、カウントをどういうふうにしているのか。

＜事務局＞

例えば店舗から住宅になった場合については、店舗として数えていない。

**【委員】**

母数から外すということか。

<事務局>

はい。

**【委員】**

質問ではなく意見であるが、中心市街地の活性化を掲げる際に、どうやって商店を戻していくのが基本の方向性だと思うが、例えば後継者が居ない店舗をスペースとしてどういうふうに地域として有効に活用できるかという観点でいろいろな取組もできればと思う。若い人材が、やりたいと思えば非常に良い。空き店舗のスペース、公共のスペースを含めてそれを地域の方が活用して、どんどん増えていく状況を作っていく、特に高知の場合は、いろんなイベントをしていて、ポテンシャルは全国の中でも高いと聞いている。若い人達のやる気もあると思うので、何か取組ができればいいと思う。

<事務局>

空き店舗を商業目的以外で活用した例としては、タウンモビリティステーションふくねこや高知市が開設した学生生活動交流館がある。このような例が商店街全体で、どれくらいあるかという数字を押さえていないが、そのようなことについても、考えてみたいと思う。

**【委員】**

はりまや橋周辺の商店街の方があまり人の流れが良くないことを聞いており、はりまや橋が日本のがっかり名所1位と言われるが、第1位というのが面白く、それを逆手にとって、はりまや橋周辺をどういうふうに高知の観光地として盛り上げていけるのかと考える。周辺にあるのはよさこい情報交流館ぐらいいなくなって、よさこい祭りの時などは多くの観光客が入っていいと思うが、その他の時期にも活用方法があるのではないか、観光地としての活用を検討して、二期計画の中にも、新しい何かが出来ないかと思う。

**【委員】**

計画エリアを 270ha から 142ha に縮小したということであるが、外れたエリアは何か影響や変化はあったか。

<事務局>

計画エリアから外れた愛宕商店街は空き店舗率が悪化したので、本年度から対策を始めたところである。ただ旧の中活エリア（270ha）については、高知TMOで色々な事業

を取り組んでいるので、今後も中心市街地のエリアとその他近隣のエリアについて、それぞれ高知市として取り組んでいく。

**【委員】**

元々の計画というのは、外れた愛宕街、栄田町、塩田町あたりについて、平成11年の計画時には、まだ鉄道高架事業、関連する区画整理事業もあまり進んでなかったという状況で、次の中心市街地の基本計画の検討の中で指標になるようなことも踏まえてエリアをどうするか、皆様にご論議いただけたらと思う。

**【委員】**

バスターミナルやはりまや橋、電停及びバス停を含めて色んなご意見をいただいているが、認可の問題やさまざまな制限があり、できてないのも事実としてある。現在の状況のなかで、案内を分かりやすくしていくとか、バスを含めたアクセスをどのようにして利便性を高めていくとかというところが課題。公共交通は、まちづくりと密接に関係しており、今後の方策を模索しているという状況である。

**【委員】**

唯一の百貨店であるが、厳しい状況なので、やりようは沢山あるけれど、やりようが出来てなかったと、というようなことがあったと思う。客数の増加、来街者の増加について、東の地区を含めて、中心商店街の中で色々なやり方を見つけながら、高知の方がハッピーになっていければいいと考える。

来街者が減少すると我々の入店率も落ちる。来街者数イコール入店率であって、来街者数の把握だけでは実際どれくらいお金が落ちているかは見えないが、落ち幅をどれくらい上げていくのかということも目的だと思う。

**【委員】**

一昨年まで持ちビルのテナントがずっと空いていたが、ここ1年の間に県外の飲食関係で全部埋まった。以前は子どもと街に来て一緒に楽しめる環境がなかったが、最近は中央公園とか、休日を利用してのイベントが多くあるので、来ている方が多い。街へは子ども連れや家族で来られるので、飲食にしても、買い物にしても、もっと賑わうのかという視点、商売をやっている側からの視点で、意見を出してもらったらいいと思う。

**【委員】**

私は、何を買いたいか決めて商店街へ行っている。ショッピングモールへは目的を決めずに行く場合もあるが、帯屋町商店街で買い物をした時に、目的の商品を買った後、子ど

も達を連れて街に残る理由がない。観光施設や飲食店も同じ。手厳しいかもしれないが、我々が子どもの頃は、非常に賑やかだったイメージがあるので、子どもが行った時に、買い物でも、イベントでも、中心商店街の中で滞留する時間を長くできるような施策を検討していただければと思う。

#### 【委員】

第1期の延長戦と考えていくことで、課題が第1期の時に色々ありまして、大分改善されている所もある。ハード面がかなり整備されているので、今後の課題としては、回遊性を高めるためのソフト面での対応が中心的になるのでは。

取組によって中心市街地だけ活性化してもあまり意味がなくて、中心市街地が活性化することで、他の地域にも、高知市の他の所、あるいは、東と西にも波及する仕組みを一緒になって考える。そうした仕組みを考えると、中心市街地が活性化すれば、東部と西部が、その分マイナスになるのではなくて、波及効果によってプラスの影響がでてくるようなソフト面での仕掛けを散りばめていったほうが良いのではと思う。

#### (2) 中心市街地に関するアンケート案について

→事務局より説明(資料5・資料6)

##### ■質疑等

委員からの意見、特になし

#### 7 その他

事務局から、第2回検討委員会を平成29年2月に開催することを報告

#### 8 閉会

以上